

## 第6回丘珠空港機能強化検討会 議事概要

日 時：令和5年10月6日（金）16：00～16：50

場 所：TKP札幌カンファレンスセンター ホール6B

出席者：委員19名、札幌市（事務局）4名

### 1 開会

#### (1) 挨拶（札幌市 天野副市長）

- ・ 第5回検討会において、空港の機能強化に向けた課題や対応の方向性を整理させていただき、その後、札幌市では、空港の機能強化や空港周辺の賑わい創出等に向けて、空港周辺の11連合町内会との地域連絡協議会を設立し、意見交換を行ったところであるが、「もっとスピーディーに進めて欲しい」といった、早期実現を望む意見を多くいただいた。
- ・ 札幌市としては、当検討会で取りまとめた様々な課題と対応の方向性をもとに、今後も関係の皆様と緊密に連携させていただき、具体的な協議や検討を進めさせていただきたい。
- ・ 札幌市としては、滑走路延伸の2030年供用開始に向けて、引き続き、本検討会において、各課題やその対応に関する想定スケジュールなど、具体的な協議や検討を行わせていただきたいと考えている。

### 2 議事

#### (1) 「丘珠空港の将来像」の実現に向けた取組について（事務局説明）

- ・ 将来像では、概ね10年後の実現を目標としていたが、機能強化の柱となる滑走路延伸について、札幌市が最短と考える2030年供用開始を目指すことを市議会に報告し、その後、8月31日に札幌市・北海道・札幌丘珠空港機能強化推進協議会で、国土交通省と防衛省へ滑走路延伸の2030年供用開始に向けた要望を行った。

#### (2) 時間軸・優先度での課題・情報の整理

- ・ 滑走路延伸の2030年供用開始に向けて、いつまでに何に取り組んでいくのか、時間軸・優先度で課題や対応の方向性を整理していきたい。
- ・ 調査・配置検討等を行っていく段階において、現状速やかに対応すべきものを短期に、施設計画段階におけるPIや環境アセスメントの期間など、事業化前までに対応しなければならないものを中期に、事業化後から供用開始前までに対応すべき項目を長期として整理したい。
- ・ 短期の取組も重要であるが、中長期を見据えて、短期で考えているものが長期にしっかりリンクしているか、手戻りにならない様に考えていくことが重要。
- ・ 就航機材により騒音も変わってくるため、今後も騒音の調査や予測を行いながら、環境基準内で運航可能な便数を確認していきたい。
- ・ 2次交通の検討について、ステップとして実証実験があり、2次交通の充実は中期になっているが、できる限り早期実現を意識して取り組んでほしい。
- ・ 空港ターミナルビル強化について、丘珠空港の運用上の強化策を考えると、丘珠空港と道内7空港もしくは12空港と連携できる運営体制の構築を目指していくことが、丘珠空港の機能強化に資すると思うので、ハードだけでなくソフトの運営についても併せて検討を進めてほしい。

### (3) 検討・取組状況等の情報共有

- ・ターミナル機能の拡充や空港緑地の活用等について、地域の方から意見をいただくため、アンケートを実施しており、今後、ワークショップやオープンハウスを開催していく予定。
- ・滑走路延伸等に伴う除雪体制や空港機能の強化について、2030年には各機能が発揮できるように準備をする必要があるため、引き続き連携を図り、事業を実施していきたい。
- ・ターミナルビル機能強化について、ハード面では、地域の意向や防災、脱炭素、自動化、省人化など、これまで整理してきた色々な課題について検討に入っているところ。必要規模についても考えを整理しているところで、国とも協議しながら詰めていきたい。また、運営のあり方についても、積極的に議論していきたい。
- ・新千歳空港のビジネスジェット専用ターミナルについて、12月の開業を目指しており、運営手法も含めて検討している。国際便の受け入れをターゲットに検討を進めているところ。
- ・HACの4機目について、10/25からの定期便運航に向けて順調に進めているところ。短期的には4機体制を構築し、丘珠空港の利便性向上に寄与していきたい。また、格納庫見学会やチャーター便運航など、丘珠空港の認知度の向上に向けた取組も継続して行っていきたい。
- ・2030年のリージョナルジェット機の通年運航化に向けて、安全・安定飛行をしっかりと行っていきたい。
- ・空港駐車場について、利便性向上のため、10/1から予約制を導入したところ。現場レベルで対応可能なものは、引き続きしっかりとやっていきたい。
- ・滑走路延伸の事業化に係る多種多様な調査・検討を想定し、準備を進めていきたい。
- ・滑走路延伸や増便等を見据えて、関係者と協議しながら、しっかりと検討を進めていきたい。

### (4) その他

- ・今後の検討については、訓練時間・場所の確保や2次交通の改善等、個別の議論になってくる。発着枠についても、将来像に描く路線展開にできるだけ近づいていける様に、関係機関の皆様と部会といった形式で、検討会の枠組みの中で個別に進めていきたい。
- ・より具体的な検討になるということで、関係者を絞り込んだ議論を進めたいということ。
- ・2030年供用開始を目標に置いて、短期・中期・長期で課題解決を進めていくということであり、難易度は様々であるが、関係者で協議を進めながら方向性を出していけるよう、引き続き協力をお願いしたい。

以上